



鎌田 隆宏 議員

農地の効率的な利用は

奥山産業環境課長

放棄耕作地解消や 集約化を進める

Q 効率的な農地利用はできないか。

A 農地利用の将来像を示す「地域計画」の策定業務を行っており、年度末をめどに取りまとめる予定。
策定後に貸出し希望農地の把握やマッチング等により、放棄耕作地解消や農地の集約化を進める。
防護柵の設置を含め

た獣害対策も協議し、効率的な農地利用に取り組みたい。

Q 利用していない農地を貸したい方と、農業をやりたい方とのマッチングはできないか。

A 府農地中間機構が運営するホームページ内の「貸付希望農地一覧」に、本町の貸出し

希望農地を掲載するほか、町ホームページを活用した情報発信等を検討したい。

Q 管理しづらくなった農地を、隣接する農地と集約するなどの整備について、

本町の考えは、

A 集約の話し合いや、貸借や売買などのマッチング



これから先の農地利用は

等「協議の場」を定期的に設け、積極的な議論や調整などをしていただきたい。

などを掲載。
本町の空き家や生活環境の問い合わせ、住宅と合わせて農地取得の相談もあり。
窓口職員が空き家バンクの紹介や、町内を案内するなど、きめ細やかな対応を行っている。

Q 移住・定住者を増やす取組は。

A 市内や他府県で開催される移住フェアに出張窓口を開設。
様々な機会を通じて移住希望者にアプローチできる取組を実施している。

様々な機会を通じて移住希望者にアプローチできる取組を実施している。

Q 観光入込客数を増やす取組は。

A 京都産業大学井手心援隊の協力でインスタグラムを立ち上げ、学生の視点を取り入れた本町の観光地等

の情報、イベント告知等の発信を行っている。
Q 「地域おこし協力隊」の活動成果と今後の方向性は。

A 現在3名の隊員を任用中で、移住・定住相談窓口の開設準備や相談対応、テオテラスでの開業準備や施設運営支援、ふるさと納税の記念品の掘り起こしなど。
任期終了後は、本町の各種事業に引き続き協力いただける仕組みづくりや、新たな隊員の任用も検討。

任期終了後は、本町の各種事業に引き続き協力いただける仕組みづくりや、新たな隊員の任用も検討。

移住・定住者を増やす取組は

高江企画財政課長

市内や他府県の 移住フェアに窓口を開設

Q 移住・定住の相談窓口と、これまでの相談件数は。

A 所管は企画財政課で、令和5年度は、12件。令和6年度は、11月末で17件。

Q 移住・定住の情報発信内容と、問い合わせ状況は。

A 町ホームページの 프로모ーションサイトで、観光スポット、子育て施策、住民の声な



各種事業で活躍する「地域おこし協力隊」



木村 健太 議員

子育て世代の定住に向けた取組は

高江企画財政課長
辻井建設課長
花木住民福祉課長

各種事業に取り組んでいる

Q 子育て世代の定住促進に向けて町の取組は。

A 18歳までの医療費の全額助成や、町立保育園・小中学校の給食費無償化など府内トップクラスの子育て支援施策を実施。

企業や大規模商業施設の誘致、JR奈良線

の高速化・複線化など町内の生活環境の向上、首都圏からの移住者を対象とした移住支援金や定住者を対象とした

大学等の奨学金の返還支援金などの事業に取り組んでいる。

Q 子育て世代向け賃貸住宅の家賃補助を行う考えは。

A 他市町村の事例や国、府の制度を見ながら移住・定住につながる支援かを検討したい。

Q 戸建て住宅用分譲地を町主導で整備する考えは。

A 都市計画区域の現状、課題を把握し、今後のまちづくりの基本的な方針を定める「都市計画マスタープラン」の改定業務の中で検討したい。

町主導による整備手法は、先進事例を参考に、住宅需要の喚起策や住宅地供給が進むような整備への関わり方について検討したい。

Q 過去5年間で若者層の転出の状況は。

A 15歳から34歳の日本人の転出者数は令和元年度108人、令和

2年度153人、令和3年度114人、令和4年度110人、令和5年度109人。

Q 若者層のUターンを促進するため、町独自の補助等を行う考えは。

A 町内での雇用の場の確保も重要な要素の一つであり、今後、国道24号城陽井手木津川

バイパスの整備効果を活かした企業誘致の推進、住宅適地拡大のための取組を行い、若者層が暮らしたいと思えるまちづくりを進めていきたい。

Q 女性や子育て世代の転出対策の考えは。

A 子育て支援サービスの充実や住宅地の確保を検討。

子どもの頃から井手町に愛着を持ち、町内に暮らし続けたいと思う環境づくりとして、小・中学校での地域学習や体験学習の実施、特に女性や子育て世代の方には、まちの良さを再発見できるように、交流拠点を活用したイベントなどの機会を創出したい。



子どもたちの笑顔あふれるまちを目指す取組を

有害鳥獣駆除対策について

委員長 鎌田 隆宏

11月11日に、委員4名と委員外議員5名の出席のもと、関西参与、奥山産業環境課長、西川産業環境課係長の出席を求め、開催しました。

要であると思われました。そのためには、これから地域で活動できる「グループ作り」が課題になります。

有害鳥獣の被害の現状や駆除対策の現状、支援対策、取組の現状について行政側から説明を受けた後、各委員が質疑を行いました。

サル、イノシシ、シカ、その他の小動物など、有害鳥獣は、種類ごとの対策を行うことが有効で、その取組を個人ではなく地域で行うことが重



被害状況や対策について質問が出ました

速やかに正確な情報伝達が行える手段とは

委員長 脇本 尚憲

災害などの緊急時に、行政側からどうすれば早く多くの情報を伝えることができるのかと、既に導入されている防災行政無線や町ホームページ、また町公式LINEやメールなどの情報発信ツールの有効活用など、本町における住民への伝達方法についての調査研究のため、委員会を開催しました。

委員からは、今年5月に導入された同報系デジタル防災行政無線について、住民からの問い合わせ

や、その対応等の質疑があり、町公式LINEの登録者数や、登録者を増やすための啓発活動等についても質問がありました。

委員会終了後、どの地域、どの世代の方にも、町から発信される情報が早く正確に伝達ができるよう、住民の生活スタイルに合った方法を知り活用いただくために、引き続き対策を行なっていくよう、委員会での要望を取りまとめました。

「井手町 LINE 公式アカウント」開設しています

井手町では、住民の皆様をはじめ、多くの方々に行政情報を広く発信するために、井手町！LINE公式アカウントを開設しています。防災情報などの緊急情報をはじめ、観光イベント情報や文化情報その他、町政に関する情報などを発信していきますので、ぜひ友達登録してください。

スマートフォンなどでLINEアプリを起動して、次のいずれかの方法で登録してください。

①メニューの「ホーム」から「井手町」または「@idetown」と入力して検索してください。

②「友達追加」から「QRコード」を選択して、上記のQRコードを読み取ってください。



お問い合わせは、井手町企画財政課 (Tel.0774-82-6162)

町LINE公式アカウントの登録方法



情報伝達方法について説明がありました

行政視察受入報告

福島県双葉町議会の行政視察

脇本尚憲

11月25日に、福島県双葉町議会から、議員7名と職員2名が行政視察のために、本町を訪れられました。

視察内容は、現在本町が積極的
に取り組んでいる「子育て支援施
策の独自拡充事業の取組」につい
てで、西垣参与と各担当課長が説
明を行い、それに対して質疑応答
が行われました。



行政視察受入風景①



行政視察受入風景②

福島県双葉町は、東日本大震
災以後、全町避難を余儀なくされ、
避難指示が解除された後も、町民
の帰還率が非常に低い状況にある
との説明がありました。

そのような状況の中で、帰還を
希望する子育て世帯に対する有効
な施策について、真剣かつ熱心に
質疑される各議員の姿が、大変印
象的でした。

市町村議会議員研修報告

地方財政制度の考え方と自治体財政

鎌田隆宏

10月16～18日に、全国市町村国
際文化研修所で行われた市町村議
員研修会に参加しました。

一日目は、「伯耆町の町政運営
と財政健全化」として、鳥取県伯
耆町長の森安保氏、

二日目は、「地方財政の考え方」
として、総務省地方財政審議会会
長の小西砂千夫氏、

三日目は、「財政健全
化における川西市の取り
組み」として、兵庫県川
西市副市長の松本茂弘氏
の講義を受けました。

参加した市町村議員
が事前課題として提出し
た決算資料を見比べると、
同じものではなく、それぞ
れのまちの特徴と課題に

気がきました。

分かったことは、大きな災害は
国が支援する、自治体は入ったお
金で、住民のためになる事業をど
んどん行うべきだということです。
そのためにも、議員は色々と勉
強しなければならないと思いまし
た。



研修会場にて



追跡

あの質問の
ゆくえ

過去の議員の質問に対し、その後町がどのように対応したのかを追跡調査しました。

質問

「京都サンガF.C.」とホームタウン協定を締結する考えは。
(令和6年6月定例会)

回答

より多くの住民の方がスポーツに親しめるきっかけにつながることから、協定に向けた手続きを進めている。

その後の追跡結果

12月8日に、亀岡市「サンガスタジアム by KYOCERA」で開催されたホームタウン加入に伴う協定の締結式に、西島町長をはじめ、谷田副議長、協本総務文教常任委員長で出席してきました。

今後は、ホームタウンデーにスタジアムでの町PRブースの設置や小学生のみなさんを無料招待、町内でスポーツ教室の開催など、スポーツの普及や地域の活性化などを目的とした活動や取組などに期待が持たれます。



協定締結式の様子②



協定締結式の様子①

【©KYOTO.P.S.】

●「奈義町」の子育て支援等について

10月29日に、早くから少子化対策に取り組まれて成果を上げられ、全国的にも注目されている岡山県奈義町で視察研修を行いました。

少子化対策の説明を受けた後、子育て支援施設の「奈義チャイルドホーム」を視察しました。

議員	感想等
木村 健太	本町も子育て支援には特に力を入れているが、子育て世帯メインの20代から30代の方々に、井手町から出ていきたくないと思ってもらえるような取組を考えたいと思った。
谷田 健治	経済的な支援だけでなく、「この町なら安心して子どもを産み育てることができる」という安心感（メンタル的支援・安心感の醸成）が必要であり、地域ぐるみでの子育て支援をされているのが印象に残った。
鎌田 隆宏	子育て拠点施設などでの住民同士の支え合いや、心理士によるカウンセリングなど、大学との連携、助産師、高齢者が参加するイベントがあり、2人目、3人目を考えられる環境が良いと思った。
小割 直彦	自治体の苦労や政策などが良く分かった。子どもたちは、次代を担うかけがえのない存在であり、お年寄りや住民が一体となり、充実した子育て支援を行っていることが充分理解できた。
田中 保美	少子化対策としての子育て支援施策について、まちづくりや地域づくりの取組について学んだ。本町でも少子化対策は重点課題であり、参考にしながらまちづくりを推進しなければならない。
奥田 俊夫	「奈義町子育て応援宣言」をしたことによる効果はあった。女性が町外転出しなければ人口増になる。「すべての施策を人口維持」につながるよう取り組んでいると感じた。
脇本 尚憲	人口減少対策として、結婚問題、妊活問題、住宅問題、就労問題、地域支援問題など、きめ細かい対応を複合的に行うことが必要と理解した。「少子化対策は高齢福祉問題」との言葉が印象に残った。
谷田 利一	支援内容については、本町も負けないくらいの充実した取組と感じた。町独自のICチップ入り電子カード、多世代共用型「ナギフトカード」は、本町でも取り入れたい事業と感じた。
岡田 久雄	子育て拠点施設「奈義チャイルドホーム」では、子育て世代が気軽に集え、高齢者や幅広い住民の支援が得られる。本町でもこのような精神的に支え合う子育て支援の取組が必要と感じた。



奈義町役場にて



「奈義チャイルドホーム」の視察

●「美咲町」の子育て支援等について

10月30日に、各種子育て支援施策に加え、高齢化と人口減少に対応するために、「賢く収縮」しながら、「地域共生社会」の実現を目指されている岡山県美咲町で視察研修を行いました。

議員	感想等
木村 健太	「小規模多機能自治」と銘打って行われている取組で、「行政はやってくれない」から「行政はやらせてくれない」へと、町民みなさんの意識を変えようとする取組が行われていることは、見習うべきと感じた。
谷田 健治	地域の自治を育てる取組を行政が支援している。「賢く収縮するまちづくり」を進めておられ、人口が減っても元気な町にするという視点は重要であると感じた。
鎌田 隆宏	人口減少に見合ったまちづくりに変える方向で行われている。いろいろな世代が交流し、意見を話し合う場が必要と感じた。「小規模多機能自治」のような取組は、子育てや防災等、住民が主となり考えることが大切である。
小割 直彦	子育て支援プランが40以上もあり、驚かされた。「賢く収縮するまちづくり」をモットーに、地域住民との「人の交わり」を大切に、粘り強く話し合いをしていく姿勢はとても勉強になった。
田中 保美	子育て支援施策の業務内容が充実し、住民にとって、生活がしやすい、住みよい町であると感じた。また、町が整備した住宅用分譲地、購入補助金等の施策を通して、まちづくりの重要性を感じた。
奥田 俊夫	古い公共施設を解体・売却し、「小規模多機能自治」に取り組みされている。「賑やかな過疎」を作りたいという気持ちが伝わり、とても参考になった。
脇本 尚憲	収縮していくまちづくりについて、大変興味をもった。また、住民主体で地域づくりに取り組む施策などは、本町にとっても今後検討していく重要な課題であると感じた。
谷田 利一	子育て支援は、本町も負けず劣らずの支援施策であると感じた。町有地を整備し、安価で住民に分譲し、住宅を建設してもらうことは、素晴らしい提案であると感じた。
岡田 久雄	若者の移住・定住を図るため、町が住宅地を開発し分譲する事業が参考になった。また、住宅地は小さな単位で数箇所に分散して、区画整備することが重要など、学ぶことが多くあった。



説明を受ける議員



美咲町役場の議場にて

二十歳のつどい

特集2

12月定例会

町政を問う

委員会報告等

【特集1】追跡

管外視察研修報告

【特集2】二十歳のつどい

いでたんが聞く

二十歳のつどいの様子です。



山吹ふれあいセンターで開催されています。



令和7年 井手町

1月12日に開催された



二十歳になられた皆さま、おめでとうございます。

いでたんが聞く

新米記者いでたんが町に出かけて、まちのこといろいろ聞いてみます。

今回は二十歳のつどいに出席された
皆さんに突撃インタビューをしてきました。



いでたん



- ① 将来の夢
- ② 二十歳になってほしいこと
- ③ 未来の井手町はどうなって欲しいか？
- ④ 好きな食べ物
- ⑤ 座右の銘
- ⑥ 今ハマっていること
- ⑦ 好きなスポーツ



加藤 鈴音
(かとうりんね)

- ① 皆から信頼される薬剤師
- ② ビールを飲めるようになる
- ③ 生涯住み続けたいと思える町
- ④ エビフライ、餃子
- ⑤ やらない後悔よりやる後悔
- ⑥ 1人映画館、散歩
- ⑦ バレー観戦



原田 楓
(はらだかえで)

- ① コミュニケーション能力を生かしたマーケティング
- ② お父さんと居酒屋で2人で飲む
- ③ このまま平和にのどかな町がいい
- ④ とまと
- ⑤ Happy smile
- ⑥ 車で日帰りの遠出ドライブ
- ⑦ プロ野球、Bリーグ観戦



藤波 喜虎
(ふじなみきとら)

- ① 偉大な父親
- ② 海外旅行
- ③ 近代化の推進
- ④ 食べれるもの全て
- ⑤ 失敗を恐れているなら、おそらく君は失敗するだろう
- ⑥ 自分探し
- ⑦ eスポーツ



西村 未来
(にしむらみく)

- ① 自分の店を持って色々な人を笑顔にすること
- ② 美容資格をとる
- ③ 人が溢れる井手町になって欲しい
- ④ お母さんが作るお好み焼き
- ⑤ 一生懸命やって勝つことの次にいいのは一生懸命やって負けること
- ⑥ Netflix
- ⑦ バレーボール



中畑 諭大
(なかはたゆきひろ)

- ① 皆が知る有名人になる
- ② お酒を飲む
- ③ 今のままでいい
- ④ ラーメン
- ⑤ 人間は考える葦である
- ⑥ スポーツ観戦
- ⑦ サッカー



山口 伊織
(やまぐちいおり)

- ① 世界一周旅行をすること!
- ② 貯金
- ③ 今のままでいてほしい
- ④ 寿司、チョコ
- ⑤ 一期一会
- ⑥ よにのちゃんねる
- ⑦ バレーボール

ご協力ありがとうございました!!

